

PICK UP MOVIE



©2020 Warner Bros. Ent. All Rights Reserved

ひかり探して

〔2020 年／韓国／116 分〕 監督・脚本：パク・チワン 出演：キム・ヘス、イ・ジョンウン、ノ・ジョンイ、キム・ソニョン

“わたしは今日から、
人生を始める——”

第 57 回百想芸術大賞＜映画部門 最優秀脚本賞＞
第 42 回青龍映画賞＜新人監督賞＞
新鋭パク・チワン監督、鮮烈な長編デビュー作



台風が吹き荒れるある日の夜、遺書を残し離島の絶壁から身を投げた少女。休職を経て復帰した刑事ヒヨンスは、少女の失踪を自殺として事務処理するため島に向かう。少女の保護を担当した元刑事、連絡が途絶えた少女の家族、少女を最後に目撃した聲啞の女、彼らを通じて少女がとある犯罪事件の重要参考人だった事実を知ったヒヨンスは、たった一人孤独で苦悩していた少女の在りし日に胸を痛める。捜査を進めていくにつれ、自身の境遇と似ている少女の人生に感情移入するようになり、上司の制止を振り切って、彼女は次第に捜査に深入りして行く…。

悲しみから立ち上がり
支えあう女たち

韓国で、監督も主演も女性という映画が増えている。この作品も監督をはじめ主要な登場人物は女性たちだ。しかも驚いたことに撮影現場のスタッフも半数が女性だったという。そんな状況から生み出された作品には、どんな変化が見られるだろう。本作はいわゆる事件ものだが、全体の味わいは確かに従来の男性中心の物語とはだいぶ違う。

小さい島の絶壁から姿を消した少女セジン。遺体が見つからぬまま自殺と処理されそうな事件の再調査を担当したのは、女性の刑事ヒヨンスだった。物語の大筋を追うかたわら、ヒヨンスの身の周りのディテールが自然にはさみこまれる。彼女は長年にわたる夫の浮気を知って苦しみのもん底にいるが、同時に職場でも昇進を目前に挫折を味わっている。ヒヨンスにとっては、少女失踪事件の再調査は、順調な復職にむけての重要なステップだ。

業績を挙げて自分を立て直そう、そんな意気込みで事件現場に赴いたヒヨンスは、おおらかな島の女性たちや、セジンの身近にいた口のきけない女性と触れ合う。セジンはある事件に巻き込まれて幽閉状態にあった。捜査記録を精査し、実地検分をかさねるうちに、ヒヨンスの中に新たな感情が湧きおこる。抗えぬ力に抑え込まれたセジンの絶望が、光を求めてもがくヒヨンスの心に響く。ついに職務を超えた行動に出たヒヨンスは、思いがけない事実に向き合うことになる。

女たちは、社会の前線で活躍していても、小さな島の片隅で生きていても、心のどこかに傷を負っている。互いにそれを感じ取り、心がつながることがある。そういう人間関係が、ひとりの人間に死なずに生きる道を選ばせることがある。韓国では文学でも、いままで言葉にできなかった違和感を何とか表現しようとする女性作家の作品が目立つ。本作もそんな流れを汲むと思うが、そうした動きはすべての人がより自然に生きられる社会をつくる力になっていく予感がする。

〔上映日程〕 3/19~4/1（休映：3/22、28）

tamura shizue
田村志津枝

ノンフィクション作家。一方で大学時代から自主上映や映画制作などに関わってきた。1977 年にファスビンダーやヴェンダースなどのニュー・ジャーマン・シネマを日本に初めて輸入、上映。1983 年からホウシャオシェンやエドワード・ヤンなどの台湾ニューシネマ作品を日本に紹介し、その後の普及への道を開いた。